オバマ大統領とアメリカの現状
2012 年大統領選挙を見据えつつ

神戸大学大学院　簑原俊洋教授

来年 11 月の大統領選はもうすでにスタートしている。しかし，まだスタートしたばかりで，正確には将来を見通しづらいが，現状において果たしてオバマが再選できるのかどうか，私の予想をお話ししたい。

Ⅰ　はじめに：ちょっと気になること

私は６月末に約１週間ほど，ザルツブルグ・グローバルセミナーに参加した。同セミナーは，1947 年にハーバード大学の学生３人が始めたもので，世界各国の有識者及び政策決定者が一年に一回集まって戦後の世界情勢について話し合う場である。今回のテーマは，「米国と東アジア」であり，参加者はＡＳＥＡＮ諸国＋日米の有識者であり，私も日米の代表として招待された。日本代表としてジャーナリストの道傳愛子氏も参加し，非常に有意義な話し合いができた。

同セミナーにおいて痛感したのは，日本はもはや“どうでもよい国”に成り下がってしまったということである。私は日米関係専門であるから，私が出席する国際会議は基本的に日本と米国を議題の中心においた会議であるため，日本の存在感はあって当然であるが，今回，私は初めて日本がメインでない国際会議に出席し，日本の存在感が希薄で，海外から非常に軽視されていると感じ，ショックを受けた。どのくらい深刻な状況かというと，議長が開会の挨拶で日本について全く言及せず，閉会の挨拶ではあまつさえ日本の存在を忘れるという始末であった。1980 年代であればありえなかった状況である。日本は世界第三の経済大国であるにもかかわらず，今回，タイ，カンボジア，インドネシア，フィリピンの参加者がいたが，ASEAN 諸国の代表が日本を話題にすることはなかった。あれだけ日本が ODA で ASEAN 諸国の発展に貢献してきたにもかかわらず，これら諸国は「日本の貢献は過去のもの」として認識し，どの国も中国の方を向いている状況である。ASEAN 諸国にとって中国との関係が死活的問題であり，それと比べれば日本との関係は“どうでもよい”問題なのである。非常にゆゆしき事態だ。

私は各国の有識者と一週間寝食を共にしたため，非常に仲良くなり，本音で話し合いを行った。その際，私は「なぜ日本に存在感がないのか？」と各国の代表者に質問してみたところ，彼らからは「世界の舞台において、日本はもはやファクターではない」，

「日本にはリーダーシップがない」

などの意見が聞かれた。そこで，「日本におけるリーダーシップの欠落とは何か」を問いつめていくと，やはり，５年間で５人も首相が代わるというのは先進国としては恥であると思われているようだ。また，官僚機構が政治をとり仕切る構造も深刻な問題である。首相の交代は海外からは異常な状態として見られている。

また，中国からの参加者（軍関係のシンクタンク幹部，サイ氏）が非常に印象的だった。これまで私が接してきた中国人研究者は，決まって

「中国は覇権を望まず，平和的台頭を目指している」，

「中国が台頭することは世界にとって良いことだ」

と強調するが，同参加者はそのようなことを言わずに，

「中国は将来，東アジアにおいて紛争が起こることを想定してその備えをしている。中国に対して挑戦者が出てきた場合，中国は自らの国益を守るために紛争（conflict）という手段に備えなければならない」

と述べた。私はこのような発言を今まで聞いたことがない。中国がよっぽど将来において自信を付け楽観視しているかについての証左ではないかと思う。また，同人が多くの中国人研究者と違うところは，

「中国の台頭は必ずしも世界にとって良い将来をもたらすとは限らない。なぜなら，中国のリーダーシップは時代を追う毎に弱体化しており，周恩来や鄧小平のような“グレートリーダー”ではなくなっている。そのため，リーダーによる軍部に対するコントロールが弱くなってきている。中国政府内にも対立する組織や機関が多くあり，その中で軍部の力が大きくなると，今後，シビリアンリーダーシップを押さえきれないかもしれない。そうなると中国はアジアにおいて脅威となる可能性を否定できない」

と述べ，私の持論をサポートした点である。彼は非常にリアリストである。このような中国人に耳を傾けるべきだと思う。

中国は，日本の中国に対する依存度が大きいことをよく理解している。しかしながら中国が日本に対してフレンドリーではないという状況を，日本がどのように打開するかが一つの大きな使命であるのだが，日本にはリーダーシップが欠落しており，それが同問題の打開に立ちふさがる大きな壁となっている。

Ⅱ　アメリカの現状とオバマの（苦しい）立場

2012 年にオバマの再選は果たしてあるのか？　オバマが“エリート大統領”（２期勤める大統領のこと）となる可能性は？

当初の熱狂的な支援者でさえ，「オバマに裏切られた」と言っている。現在オバマは非常に苦しい立場である。

注：米国は米国の憲法修正条項によって大統領は２期までとなっている。FDR（フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領）以前は，初代大統領のジョージ・ワシントンが２期であったので，慣行として２期となっていたが，FDR が４期を超えてしまったので，「これはよくない」として憲法が修正され，今では２期（８年）までとなっている。最近は，ブッシュ父以外は全てエリート大統領である。

一つの事実：

「失業率が７％以上の時の現役大統領は今まで再選されたことがない」

経済状況が厳しいと大統領は続投できないという事実がある。現在は失業率 9.1％で非常にまずい状況である。経済状態が悪くても戦争中は軌道修正しないというルールがあるのだが，現在，米国の戦争は終息に向かっており，このファクターは除外できる。

失業率と経済成長率の推移

失業率 7.5％　スタート→現在は 9.1％

注：米国の失業率の統計は服役中の人を含まない。彼らを含めると２～３％上がるといわれている。

GDP 成長率は 2009 年はマイナスであったが，現在は 1.9％プラスである。しかし大きな数字ではない。日本の震災やギリシャ危機が米国経済に影響している。

オバマの目標は「勝つこと！」である。しかしながら，中間選挙で惨敗したため，下院での過半数を失った。現在，米国民は公然とオバマを批判している。オバマの人気は国外の方があると言える。なぜそこまでネガティブな評価が下されているのか？

「変わらなかったアメリカ」

- グアンタナモ収容所の閉鎖→危険度Ａの人を送る場所がなくて進まない
- 移民政策の軌道修正がなされない
- 核なき世界への動きがない
- アフガニスタンからの撤退（先月撤退開始を表明，2014 年末に完了予定）
  →安定した政府を残さずに撤退して良いのかとの議論
- 財政赤字の削減（1156 兆円）→税金を減らすこともできていない

他方，「変わったアメリカ」

- ビンラディンの暗殺
- 国防費の削減開始→日米関係に直結する問題である。米国の東アジアでのプレゼンスが低下すれば日本が代わりを務めなければならないが・・・。
- イラクからの撤退
- オバマケア（健康保険改革）2015 年スタート
- 中東へのサポート→今までイスラエルべったりであったが，イスラエル入植者問題に対して厳しい態度をとって初めてパレスチナ側の言い分をサポートした。ただし，ユダヤロビーの支持を得られなくなるというリスクもある。

それでも有利なオバマ

- 選挙戦への早い段階でのスタート：どの共和党の候補よりも現役大統領は有利である。
- 豊富な軍資金：大統領の地位を使用してパーティ資金を集めることができる。選挙にはスタッフの人件費や広告費など莫大なお金が必要である。
- 弱い立場の候補者達：目立った候補者がいない。
- 中道シフトする共和党：共和党は，米国民は戦争に疲れたとの風潮を敏感に感じ取り，中道にシフト。しかし，そうなるとハードコアな保守層が離れ，共和党は分裂するかもしれない。
- ヒスパニックの支持（67%がオバマを支持した）：ヒスパニック（中南米系米国人）は約 5000 万人おり，平均年齢が若い。2008 年と比べて 2012 年の有権者が 26%増えるほど，非常に大きなファクターである。オバマがプエルトリコ（米国領土であるが投票権はない）を訪問したのも，国内におけるヒスパニックの有権者に向けたアピール。
- 中国系米国人ロビー団体の動き：2050 年には白人がマイノリティーになり，ヒスパニックを中心に，マイノリティーがマジョリティーになり非常に大きな力を有する。さらに気になるのは，そのことを承知して中国系米国人ロビーが今，水面下でヒスパニック系ロビーとものすごい連携をとっていることである。アジア系だけでは数が少ないため，中国ロビーはお金を大量にヒスパニック系にまわしてヒスパニック系候補者を擁立し，将来的に米国の対中政策を変えていく思惑である。実際，中国系ロビー団体のマニュアルには「ユダヤロビーに学べ」が合い言葉になっている。

相変わらず低迷する支持率：47%

オバマの支持率は非常に下がった。しかし，日本の菅総理（7 月 11 日現在支持率 23%）よりはましである。日本で大統領制を導入するという話が聞かれることがあるが，その際問題になるのは天皇制をどうするかである。また，日本のリーダーシップが弱体化している背景は，

参議院の機能の低下である。今のままでは参議院は衆議院のコピーであり，差異が感じられない。参議院に権限を与えすぎていることが日本政治を麻痺させている。

Ⅲ　共和党候補の陣営

まずは脱落者

・Donald　Trump：不動産王，「オバマはアメリカで生まれていない」との唯一の政治イシューが覆されてしまった。

・Mike　Huckabee：元アーカンソー州知事

・Mitch　Daniels　：現インディアナ州知事

○そして，きっとまもなく脱落する者

・Newt　Gingrich　　：元下院議長，保守派でありながら女性問題が多く，麻薬問題も。‘bornagain’信者「神を見つけて全てが変わった」。

○対立候補の顔ぶれ

・リック・サントラム（53）：バージニア州出身，元上院議員，キリスト教右派代表（妊娠中絶，同性婚に断固反対，銃に賛成）

・ティム・ポレンティー（50）：ミネソタ州前知事，歳出削減と減税が政策の柱，中道派を支持層に持つ穏健派

・ロン・ポール　　（75）：ペンシルバニア州出身，11 期連続当選のベテラン下院議員（政治に精通している），イラク戦争に反対し，一躍注目を浴びた。

・ハーマン・ケイン　（65）：ジョージア州出身，元ピザチェーンの経営者，保守の黒人，公職経験は皆無。（公職経験の無い大統領はアイゼンハワー大統領以降いない）

○本命の候補たち

・ミット・ロムニー（64）：ミシガン州出身，前マサチューセッツ州知事，最有力候補。モルモン教徒，知事時代の健康保険改革が米国のモデルに採用
→オバマの改革を覆す大義名分がないため，共和党ハードコアグループが支持するかどうか。

・ミシェル・バックマン（55）：アイオワ州出身，現下院議員，茶会運動を支持基盤に持つ，キリスト教右派の代表格

・ジョン・ハンツマン（51）：加州出身，元駐中国大使，億万長者で社会的エリート層を代表，モルモン教徒，知名度は低く‘オバマの元部下’という関係も問題。

○要注意人物

・サラ・ペイリン（47）：前アラスカ州知事，前回選挙でマケインの副大統領候補（のちに彼と対立），そしてティー・パーティー運動（茶会党）の看板娘。共和党を割ることになるから出馬は困難か？2016 年の選挙を狙っている可能性。

○今回出馬を見送った候補

・ジェブ・ブッシュ　：ブッシュ元大統領の弟，前フロリダ州知事（フロリダ州は大きな州でヒスパニック系が多い），今のところ本人は大統領選に興味がない。

・クリス・クリスティー：ニュージャージー州知事，家族からの同意が得られなかった。

Ⅳ　大統領選について（ミニ知識）

何が特別なのか？

・大統領選は複雑、かつ妥協の産物である

米国建国時に問題となったのは，州の人口差であった。しかし，民主主義は数が重要であるため，人口差問題を妥協せざるを得なかったため，選挙人（上院議員と下院議員の数）による「間接選挙」を採用。米国民はあくまで選挙人を選んでいる。

48 州で「Winner　takes　all」。27 州で選挙人に対する罰則も設けている。

2000 年の選挙で問題が露呈した。一般投票では民主党・ゴアが勝利したが，選挙人の数では共和党・ブッシュが勝利した。フロリダ州の票を数え直すことも検討されたが，保守派が非常に多かった最高裁が数え直しを停止させ，ブッシュの勝利が決定した。（ゴアはすぐに敗北を認めた）

・予備選挙，候補者指名会議

予備選は毎年１月頃から開始。憲法にはどこにも明記されていない。あくまでも党の慣行として実施。存在感が薄い州が早く予備選挙を開始することによって，大統領を選ぶ課程において影響を及ぼそうとの意図が働いている。

（例：ニューハンプシャー州，アイオワ州等。「アイオワを制する者がアメリカを制する」と言われるほどである。）最近は，予備選を早める州が多くなり，問題化しているため，将来的にはルールを設けて制限しなければならない。

予備選挙後，候補者指名会議によって指名者が決まり，11 月に選挙し，翌年の１月４日に大統領に就任する。

番外編：オバマ政権のアジア外交布陣

◎　知中派が退き，知日派が中枢を占めている

ベーダーNSC アジア上級部長（知中派）→ラッセル NSC 日本・朝鮮半島部長（知日派）が昇格

オバマ大統領は，「中国に対してソフトすぎる」との批判を交わそうとの思惑がある。大統領選挙を意識し，中国に対してより厳しい姿勢をとる方針を示した。

◎　民主党政権下初の２＋２会議開催

中国の台頭に対する同盟強化が確認され，震災後は「トモダチ作戦」で日米関係が一層強固になった。他方で，未解決の基地問題・・・永遠に解決されない可能性もある。

◎　気になる点２つ

・米国の経済状況及び中国の台頭によって米国の国力が相対的に衰退し，米国のアジアに対する disengagement（兵力の引き離し）が始まっている。

・近年，中国が平和的ではないことを行っており，フィリピン，ベトナム等周辺国が中国に対し警戒感を有し，アメリカとの軍事協力を強めている。日米の２か国の関係から，米国を中心とする多面的な同盟の枠組みにシフトしている。

日本がリーダーシップを持つためには，憲法の修正が重要となる。特に集団的自衛権を持たなければ，もはや同盟国からも相手にされない状況にもなりかねない。しかし，憲法を修正するためにも，強いリーダーシップが必要である・・・非常に悲観的な問題だ。

Ⅴ　おわりに：誰が勝利するのか？

歴史家は予言してはいけないと言われるが，あえて予想する。

「決して楽な戦いとはならないが，共和党候補者が弱いし，分裂気味なので最終的にはオバマが勝利するであろう」　以上(文責　原)